

## 「誰にも相談することができない！」 悩める子どもたちの声を聞いてあげよう。

問題をかかえていても、相談できる相手がいないというのは大人でもつらい状況である。まして子どもたちの住む世界は狭い。それを救う活動が「チャイルドライン」である。毎日700人も子どもが電話で悩みや意見を語ることで、安心や解決のヒントを得ている。

1日700件の電話件数が、深刻さを物語る。

現代の子どもたちは、以前には考えられなかったような緊張感の中で生活している。学校生活では、いじめや学校裏サイトなどでの誹謗中傷におびえ、放課後は塾や習い事スケジュールに追われる。ストレスはたまる一方だ。

そうした子どもたちのストレスを少しでも緩和して元気づけるために、その声を電話で聞くサービスが「チャイルドライン」である。フリーダイヤルで18歳以下であれば誰でも利用できる。

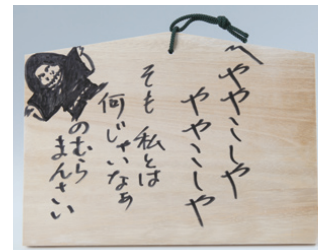
運営しているのはNPO法人 チャイルドライン支援センターである。俳優の故牟田悌三さんが、中学校のPTA会長を務めたのをきっかけに子ども支援のボランティア活動を始めて、この組織の設立に尽力した。サービスの開始は1998年、10年が経過し、今では1日に700件もの電話相談がある。

「相談の内容は不登校や対人関係、いじめ、引きこもり、家庭での虐待、性の悩みなどさまざまなものがあります。それに対して、私たちはアドバイスをするわけではあ



オリンピック女子マラソンメダリスト  
有森裕子さんの絵馬

狂言師の野村萬齋さんの絵馬



「チャイルドライン夢メッセージ展」には著名人の絵馬を見ようと多くの人が集まった

りません。お説教ぬき、押し付けぬきで子どもたちの声にただただ耳を傾けることがチャイルドラインなのです」  
同センター事務局次長の林大介さんはそう語る。

子どもたちは名前を言わなくてもいいし、嫌になったら途中で切ってもいい。中にはなかなか話を切り出せず、30分もの間無言に近い場合もあるという。それでもボランティアの担当者は多少の声をかける程度でじっと待つ。その間に相手の息づかいやまわりの様子を感じ取っていく。

また、つい自分の意見を述べたくなりそうだが、それをこらえて、子どもたち自身に語らせることが大切だそう。それによって子ども自身が悩みを整理でき、ストレスの解消につながるからだ。

話を聞くだけで、

多くの子どもたちが救われている。

具体的にどのような内容の電話がかかってくるのか、いくつか紹介する。

- 学校は子どもに命令するけれど、子どもの意見はちっとも聞こうとしない。
  - クラスの子が私にやたら命令する。先生に言いたいけれど、言うといじめられそう。
  - お父さんはお母さんを殴る。お母さんを守れないからつらい。
  - 性について、正確なことを知りたい。
- もちろん、学校は楽しいなどの意見もあるがネガティブなものの方がやはり多いようだ。

以下は電話をした子どもたちの感想である。

- とても安心できて心がホッとしました(小6/女)
  - 一緒に考えてくれたり、いろんなことを教えてもらったので良かったし一緒に笑ってくれたのも嬉しかった！(中略)友達にも紹介をしてみたい(中1/男)
- チャイルドラインのフリーダイヤルが印刷された名刺大のカードは、小中学校を介して全国の子どもたちに配られ、電話件数は年々増えているようだ。

「業務を続ける中で、やはり親の理解が必要だと感じました。子どもも悩みを抱えていることを認識し、チャイ

担当者より



**チャイルドラインの整備は  
大人の責任だと思います。**

NPO 法人  
チャイルドライン支援センター  
事務局次長 事業本部長  
**林 大介さん**

ヨーロッパではチャイルドラインを知らない子はいません。今回の絵馬展の開催は、保護者の皆様にもチャイルドラインの存在と意義を知っていただく機会になったと思います。今、24時間繋がるフリーダイヤルの受付をめざしていますが、複雑な環境に生きている子どもに対して大人が果たすべき責任だと考えております。

ルドラインを利用しやすい環境をつくって欲しいものです」と林さんは語る。

さらに、親子で楽しんでもらうイベントとして「チャイルドライン夢メッセージ展(絵馬展)」を8月の東京を皮切りに全国各地で開催した。マラソンの有森裕子さんや狂言の野村萬齋さんをはじめ漫画家のやなせたかしさん、



スタッフが電話を受けている様子

将棋の羽生善治さん、女優の竹下景子さんなど主旨に賛同してくれた100人以上の著名人が、子どもたちへのメッセージを託した絵馬を寄せてくれたのだ。イベントは盛況に終わった。

「私たちの業務は電話で『ナナメの関係』を楽しんでいるのだと思います。周囲にお子さんのいる方には支援センターをぜひ教えて欲しいですし、子どもたちの声を聞く機会を増やしていただきたいと思います」と林さんは語った。

☎0120-99-7777 毎週 月～土 16時～21時  
電話代は無料です 携帯・PHSもOK